



刹那の攻防 ～第64回関東かるた大会～

毎年恒例となっている関東かるた大会が、2月3日いきいきふれあいセンターで開催されました。この大会は今回で64回目を数え、同会場では平成7年から開催されています。

この日も市内外を問わず、遠くは東京都や宮城県などから151人が集い、熱戦を繰り広げました。大会は実力に応じて6つのクラスに分けられ、3回戦う方法で進行。静まり返った会場では句が読まれた瞬間、札を取る音が響いていました。



プロの足技にビックリ仰天 ～セルジオ越後杯争奪戦～

「プロの技術を子どもたちにも肌で感じて欲しい」。そう思いを込め、旧黒磯市と縁が深かったセルジオ越後さんの協力を得て始まったセルジオ越後杯争奪戦。今年で39回目を迎えた交流試合が、2月3日にくろいそ運動場で行われました。

プロ選手の巧みな足技に目を輝かせながら、負けじと全力でぶつかっていく子どもたち。普段はなかなかできない貴重な体験を、思う存分に楽しんでいるようでした。



熱い戦いを制し大会三連覇 ～第60回栃木県都市町対抗駅伝競走大会～

1月27日に県庁前をスタート・ゴールとして行われた第60回栃木県都市町対抗駅伝競走大会。30チームが参加したこの大会に本市からは3チームが出場。Aチームが3年連続10回目の優勝を果たしました。

2月8日には優勝チームのメンバーが優勝報告のために市役所を表敬訪問。三連覇の偉業を成し遂げたメンバーたちが優勝の喜びや今後の目標を語ってくれました。



1 県庁前をスタートし、長い戦いが幕を開けた。2 懸命な走りを見せた郡司陽大さん。3 タスキがメンバーの思いをつなぐ。4 1位でゴールした最優秀選手の郡司貴大さん。5 区間賞で優秀選手に選ばれた東泉大河さん。



バランスを取るのに悪戦苦闘 ～三島小 スポーツ義足体験授業～

障害やユニバーサルデザインについて考えるきっかけを提供する「ユニバーサル・ラン スポーツ義足体験授業」。小学生の時に左足を切断し、東京パラリンピック出場を目指す山下千絵選手を講師に迎え、2月12日三島小学校で行われました。

スポーツ義足をはめ、走ったり、ジャンプしたりと、なかなか出来ない貴重な経験に子どもたちは大喜び。体験した佐藤環くんは「段差が特に難しかった」と感想を教えてくださいました。



大きくなって戻ってきてね ～にしなすの幼稚園 サケの稚魚放流～

2月5日、西那須野幼稚園の子どもたち115人が、蛇尾川にサケの稚魚を放流しました。これは那珂川北部漁業協同組合西那須支部が毎年行っているもので、今年で6年目。この日も同組合がふ化させた稚魚約4,000匹が用意され、子どもたちの手で川の流れの中に放たれていきました。子どもたちは流れの中を元気に泳いでいる稚魚を見て大はしゃぎ。「元気でね」と声をかけていました。稚魚は海で成長し、4年後、再びこの川に戻ってきます。



3年間の集大成が実を結ぶ ～統計グラフ栃木県コンクール～

統計知識の普及のために毎年行われている統計グラフ栃木県コンクール。今年度の中学生の部門で最高賞の特選を三島中学校3年の山先心春さんが受賞しました。

「地球温暖化ー私たちにできることー」をテーマに作品を作り上げた山先さんは、「このような素晴らしい賞をいただけて、驚きとうれしさでいっぱいです。これまでの努力を实らせることができました」と受賞の喜びを口にしてくれました。



懐かしい校舎で楽しいひと時 ～むらフェス in 旧金沢小学校～

1月26日、閉校した旧金沢小学校の教室を会場として、地域文化祭の「むらフェス」が開催されました。会場では竹馬や椅子などのもの作り体験やフリーマーケット、郷土料理を提供する食堂などが設けられ、老若男女を問わず、多くの住民が交流を深めました。また、地元の耕作放棄地で栽培した大豆を、那須拓陽高校の生徒がパウンドケーキに加工。小学生たちと一緒に販売を始めると、あっという間に完売していました。